

そなエリア東京と東京港見学記録

防災体験学習と港を学ぶ

記録者 支援する会の事務局の根岸雅明



2019.12.05

川崎の産業観光を支援する会
そなエリア東京及び東京港見学会の記録

【概要】 昨年の12月に東京港を見学しましたが、今回は東京港と合わせて有明の船着き場の近くの臨海広域防災拠点のそなエリアの見学会を実施しました。

ちょうど、今週からNHK総合テレビで体感首都直下地震をテーマにした防災の備えや心構え、生き残るためにはどうしたらよいなどがショッキングで生々しいドラマ仕立てで放映されています。そなエリアで防災の備えをどうするか。生き残るためにはどうするかを学びました。

東京港見学では昨年は竹芝ふ頭から青海まで東京湾を巡り港の機能などを学びましたが、今回は埋め立て地の中央部の東京ビッグサイトの隣にある有明の船着き場の発着でお台場や豊洲や海の森中央防波堤など昨年とは違ったコースも見られてとても学ぶことが多くありました。東京港はとても美しい港でした。

港と防災については川崎でも東扇島公園内に資機材らの保管倉庫があり、この夏見学会を実施しました。引き続き川崎や東京の港と防災について継続的に学ぶ機会を作っていきたいと思います。参加者の皆様にはありがとうございました。また都合で参加できなかった方々には次年度以降も実施していきたいと思いますので、一緒に港の機能や防災について学んでみませんか。

【日付】 令和元年12月3日(火) 12:00～16:00

【場所】 東京臨海広域防災公園 そなエリア
東京都江東区有明 3-8-36
有明(東京ビッグサイト) 船着場

【目的】 防災の備えと港の機能を学ぶ。

【人数】 29人(男性24人、女性5人)

【コース概要】 そなエリア見学 12:30～14:00
休憩・移動
東京港見学 15:00～16:00



そなエリア東京

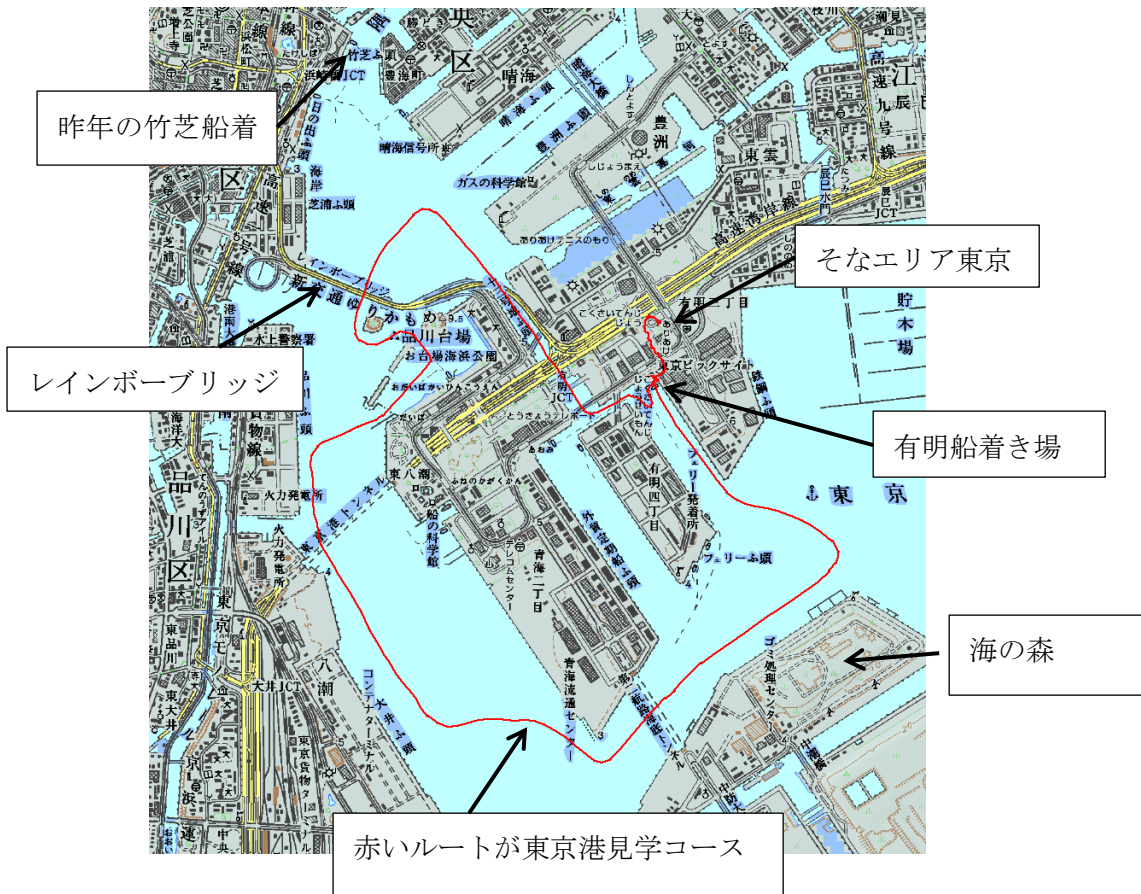


72時間どう生き残るか

東京港の案内コースのパンフレットより



GPSガーミンより記録



【感想】そなエリア東京では12時半から14時まで防災「地震発生から72時間(3日日間)どう生き残るか」を学びました。エレベータに乗っているときに地震が発生した時の対応、仮想の震災現場でのタブレット版を用いたクイズ、防災の備えや、防災備品、食料品の備蓄、避難場所での生活、地震の体験モデル、映像による地震の状況、アニメ映画、対策本部のオペレーション施設等の見学などもりだくさんの防災の知識を学びました。

自動販売機が地震時に電気系統がダメになっても自由に使えるとは知りませんでした。防災は身近な問題として常日頃から備え、準備していく必要性を強く感じました。

東京港の見学では天気が良く、とても広々とした空間に各ふ頭やガントリークレーンが立ち並び、周辺には近代的な高層マンション群やオフィスビル、ホテル、展示施設など立ち並んでいました。

私たちが生活、生産活動をしている中で発生したごみや建設残土などで埋め立ててできた島々を橋やトンネルで結び、ふ頭、市場、鉄道、道路、倉庫などの施設を整備して東京港が成り立っているのがよくわかりました。日本各地、世界各地からたくさんの物が集まりまたここからいろんなものが各地へと送られていくのでしょうか。東京港はとても美しい港だなと思いました。

【写真】



防災体験学習の説明を聞く皆さん



エレベーターホールでタブレットの使い方の説明を受ける。
タブレットに表示される問題を解きながら仮想の震災現場を歩く。





中央公園。避難場所での体験学習





人形と映像で震度の大きさのモデル体験





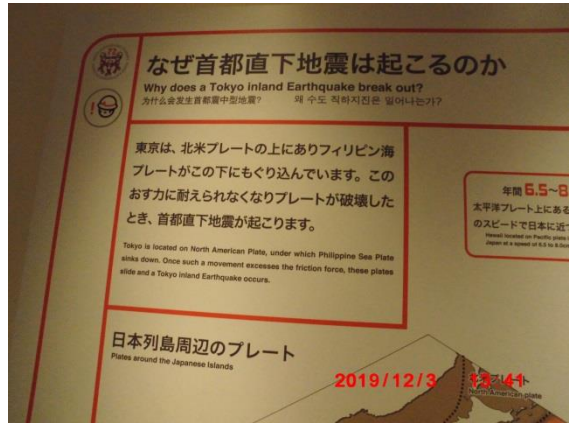
地震の大きさの目安の展示



アニメ映画を観て地震時の状況を体験する。



対策本部となる場所。オペレーションセンター。
映画の撮影などにも利用されるそうです。



地震の仕組みや大きさなど地震について解説してあるパネル



防災備品や保存食などの展示



屋上からの眺め。広場は緊急物資の保管場所やヘリポートの基地になるようです。

有明の水上バス乗り場





豊洲市場





春海ふ頭方面。正面が客船ターミナル。白い煙突は中央清掃工場春海。



竹芝ふ頭から芝浦ふ頭の眺め



レインボーブリッジ



お台場





ヒルトンホテル



品川ふ頭方面



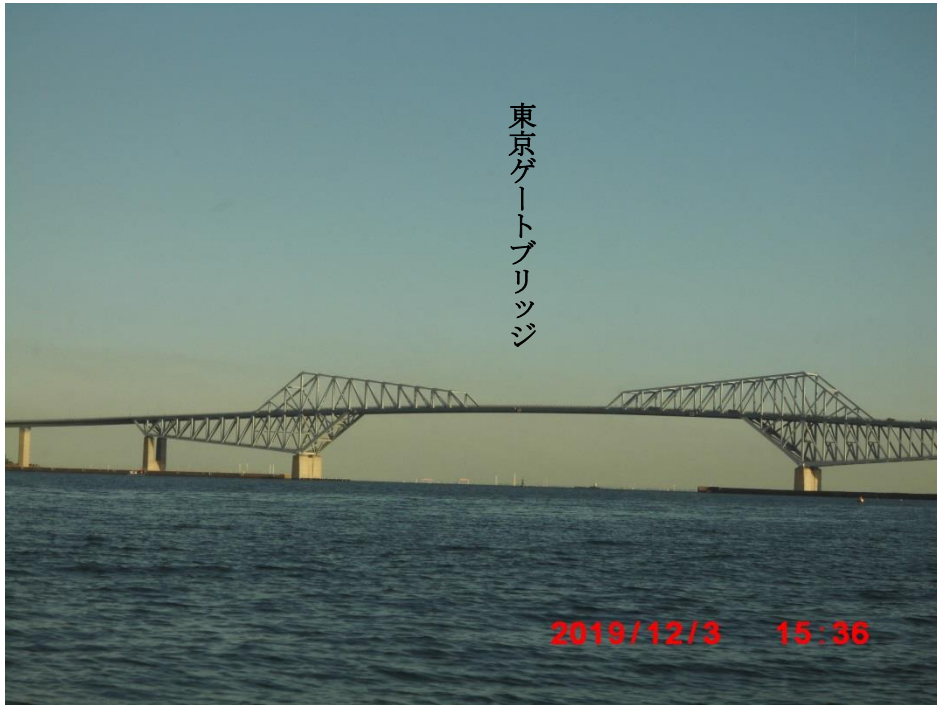
大井コンテナふ頭のガントリークレーン





中央防波堤内側埋め立て地





天気にめぐまれ防災と港を学んだ見学会でした。